

海外医療・福祉・薬学オンライン研修

プログラム概要	: 海外の医療を学ぶことで視野を広げ、今後の自身のキャリアに繋げる。
実習先	: ベトナム、アメリカ、ミャンマー、タイ
実習先情報	: ベトナム(福祉日本語教育、医療通訳)、アメリカ(看護師)、ミャンマー(孤児院にて子供達の健康教育)、タイ(医学教育の提供)
参加人数	: 30名
学部学科	: 看護学科、データサイエンス学科、人間化学科、グローバル学科.....
実習期間	: 令和3年8月7日～8月13日
本学担当教員	: 館祥平先生(看護学部)、西牟田章戸先生(薬学部)

Day1 8/7 AM10:00～PM17:20

①ベトナム文化・歴史



ベトナム人学生と交流を深める上で、まずはベトナムの文化/歴史について学びました。ベトナムでは、家族をととても大切にすることを知り、とても素敵な習慣であると思いました。日本とは違う文化に触れることができ、とても楽しかったです。

②アメリカ医療セミナー

アメリカで活躍されている看護師の方から、貴重なお話を聞くことができました。日本とアメリカの医療/看護師の違いを知ることができました。アメリカの看護師は、日本より分業がなっていると聞いて、海外の看護師に魅力が湧きました。



③ベトナム医療セミナー



アメリカ医療セミナーとはまた違い、福祉について詳しく学ぶことができました。これまで海外の福祉については、あまり触れる機会がなかったため、貴重なお話を聞くことができ、良い経験となりました。

Day2 8/8 AM10:00～PM17:40

①ASEAN医療キャリアフォーラム

海外で活躍されている4人の社会人の方にお話を聞くことができました。国もバラバラで、それぞれの国の医療について聞くことができました。違う視点から見た/考える【医療】について学ぶことができたので、視野を広げることができたと感じています。



③ベトナム学生フォーラム



ベトナム人学生の方と交流会を行いました。趣味や将来の夢など、たくさん話をしました。ベトナム人学生の方は、とても日本語が上手で基本的に会話は日本語で行いました。会話をして、文化の違いを肌で感じることができました。



こんCha'oチームのみんな

チーム名：こんCha'o

日本の挨拶「こんにちは」とベトナムの挨拶「Xin Cha'o」を合わせて【こんCha'o】です。

交流を深めて仲良くなれるようにという意味を込めて命名しました。^^

私たちは、日本・中国・ベトナム出身の3カ国の学生が集まり、グローバルなチームでした。初めは皆緊張して会話が上手く進まなかったけど、4日間時間を共にして仲良くなれました。最終日には、お互いの国のことや、趣味、将来の夢...などをたくさん話したり、聞いたりして盛り上がりました。とても楽しいチームでした！



テーマ

共通課題：保険を含めた医療制度の違いや社会保障制度

自由課題：日本とベトナムによる医療従事者の違い



私達は、セミナーやディスカッションから、日本とベトナムでは医療や医療機関への関わり方が違うことに気づきました。どうして異なるのでしょうか...??その理由として【保険/医療従事者】の違いがあることに気づきました。そのため、4日間で日本とベトナムの【保険/医療従事者】について、ディスカッションやインタビュー、リサーチに取り組みました。コアタイムの時間には、日本学生とベトナム学生で、それぞれ国の保険制度などについてリサーチしてきたことを共有し、さらにディスカッション→リサーチ→ディスカッション...を繰り返し、テーマについて深く考え、プレゼンテーションの準備を行いました。

Day7 8/13 AM10:00～PM6:00 プレゼンテーション



実際の発表資料

4日間チームで準備してきたことを、先生方や他のチームの前でプレゼンを行いました。入念に発表練習を行い、最後までチーム一丸となって取り組みました。時間をかけて準備したことをすべて発揮できたので良いプレゼンができました。

○先生方から○

チーム名が素敵です。いろいろな視点で議論ができていて面白いと感じました。日本とベトナムでは、薬局の役割が違うということも読み取れますね。ベトナムでは、薬局の機能を向上させることが今後の課題になると思います。このプレゼンから、やはり目に見える価値のあるものを患者に貢献することが重要であることが理解できました。

〈〈まとめ〉〉

今回の【海外医療・福祉・薬学オンライン研修】を受けて、様々な国の医療について学ぶことができました。日本だけでなく世界の医療について知れたことで、研修前に比べ視野が広がったと感じました。リサーチPROGRAMでは、「日本とベトナムの医療」に焦点を向け、リサーチやディスカッションを行いました。ここから、どちらの国にも良い点があるので違いを解消し、互いの医療の在り方を近づけて行くのではなく、違いを理解し、尊重したうえでその国にとってより良い方法を取っていくことが大切であると学ぶことができました。また、ベトナム人学生との交流ができてとても楽しかったです。言葉の壁を越えて、互いの文化に触れることができ、貴重な経験をすることができました。今回の研修を通して、将来海外での活躍に魅力を感じるようになりました。この研修で得たことは、今後の自身のキャリアアップに繋がると強く感じます。

海外医療・福祉・薬学オンライン研修

プログラム概要	: ベトナム学生との交流や医療従事者のスピーカーから海外の医療・福祉・薬学についての考えを深め、自身が国際的な医療従事者として活躍できるように目標を定める。
実習先	: オンライン
参加人数	: 30名
学部学科	: 看護学部、人間科学部、薬学部、工学部、データサイエンス学部、(日本語学部)
実習期間	: 令和3年8月7日～8月13日
本学担当教員	: 舘祥平(看護学部)、西牟田章戸(薬学部)

○はじめに

私はヘルスデータサイエンスの海外での用いられ方について調べたり、海外の医療や今まで目を向けることがなかった福祉や看護の部分についても理解を深めようと思い参加した。

○実習内容

Day1:ベトナムの文化・歴史について学ぶ、アメリカとベトナムの医療セミナー(10:00～17:30)

Day2:ASEAN医療キャリアフォーラム、ベトナム学生フォーラム、リサーチPROGRAM(10:00～18:00)

Day3～Day6:リサーチPROGRAM(1日2時間程度)

Day7:リサーチPROGRAM、リサーチPROGRAMプレゼンテーション(10:00～18:00)

○提案したこと、発信したこと

ベトナムは医療体制が日本のようにしっかりとしていないことを調べた結果わかったので、以下の内容を提案した。まず、医療に関するデータを取ることが正確に行われていないことが問題点だと思い、正確なデータを集めること、それを用いて統計処理を行い、医療政策に生かしていく必要があること。次に、保険医療制度について調べ、病院や医師の数を増やし、質を上げることが必要。最後に、薬剤での医療事故について調べた時にベトナムでの薬剤の杜撰な管理体制を改善するための処方箋制度を提案した。

○経験したこと、学んだこと

ベトナムの医療は日本よりも30～40年、ミャンマーの医療は日本よりも15年程度遅れている。遅れているタイではデータサイエンスの需要が今後増える。また、ミャンマーではデータが正確性のあるものが取れない。このように諸外国ではデータ自体が信用できないものが多いことを知った。日本と同じように保険医療制度が進んでいる国も多くあるが、皆保険とは言い難いような状況になっていたり、日本ほどの介護・看護までの保障をする仕組みが整っていない。

○今後の展開、今後の学び

各自が自分の専攻分野についてしっかりと学び、今回のようにチームとして医療に携われる人材になる。また、各自でどこの国でも活躍できるように外国語の勉強を怠らず、世界で活躍できる人材になる。

○まとめ

今回の研修を通して、自分が今まで目を向けたことがないところに目を向け、自分の専攻分野と照らし合わせながら世界の医療情勢について考えることができた。チームとして医療に関わっていけるようにこれからも研鑽を積んでいきたい。

